

乳幼児の心肺蘇生法学ぶ

中京で講座 母親、模型で練習



心臓マッサージの練習を行う母親
(京都市中京区・中京区役所)

乳幼児のいる家庭向けの防災講座が6日、京都市中京区の中京区役所で行われた。母子32人が参加し、母親は乳幼児の心肺蘇生や、哺乳瓶の代用として紙コップを使う方法などを、実演を通して学んだ。

同区役所の主催。講師を務めた日本赤十字社京都府支部の職員らが「2本の指の腹で胸を30回押さえ、口と鼻を覆って人工呼吸をします」と幼児の模型を使って説明し、その後、母親が練習した。

非常食の試食のほか、さらしがおんぶひも代わりに使えることや、切れ目を入れた黒いポリ袋をかぶると周

りの目を気にせず避難所でも着替えられることを伝える講座もあった。

心臓マッサージを練習した主婦北川裕美さん(38)「中京区」は「本で見ただけでは具合が分からない。実際に行うことで身についた」と話した。

(田中浩貴)